



2025年6月24日

大阪市教育局
教育長 多田 勝哉 様

夜間中学校の取り組みを支援する会
代表 田村 孝

夜間中学校の教育条件ならびに学ぶ権利の保障にかかわる要求書

2020年の国勢調査の結果、少なくとも大阪市には中学校を卒業していない人が13633人。うち、小学校を卒業していない住民が3348人と明らかになっています。それらの人は大阪市のすべての区に少なからず居住しています。

義務教育は、いうまでもなく基本的人権の大きな柱です。義務教育を十分に保障されないまま学齢を経過した住民が、政令市最多となっているのが大阪市です。また、外国人労働者の渡日が再開されて以降、大阪でも夜間中学校入学を希望する労働者やその家族が増えています。加えて、増加する不登校児童生徒やその経験者にとっても、文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策について（通知）」に示されているように、夜間中学校は学び直しの場合、将来の進学等に向けた希望の場となっています。

今年度、天満夜間には50人、東生野夜間には30人、心和夜間には25人の入学がありました。そのほとんどは外国籍であり、日本で進学して職に就き、暮らしていくことをめざしています。そのためには日常会話だけでなく、学習言語としての日本語を習得する必要があります。日本語指導ができる教員の配置が喫緊の課題となっています。

「夜間中学校の取り組みを支援する会」は、夜間中学校に通うすべての方々が、安心して学習できるよう夜間中学校の教育条件の向上をめざし、2010年12月に発足しました。この間、大阪府や大阪市では、財政的な理由から夜間中学校に対する施策が縮小・廃止されています。様々な理由で「学ぶ権利」を奪われてきた方々が、行政の財政的理由によって再び「学ぶ権利」を奪われてはなりません。

夜間中学校の施設・設備の改善をはじめとする教育条件の向上と夜間中学校に通う方々が安心して学べるよう、以下のとおり要求します。

記

1. 教育委員会会議（2023年6月27日）で示された「本市における中学校夜間学級の再編にかかる方向性について」に記載されている文の里中学校と天王寺中学校の夜間学級を心和中学校夜間学級に統合・移転したときの効果について、検証されたい。

- ① 教科学習の基礎としての日本語指導の充実について。
- ② 不登校経験者等が通いやすい環境の整備について。
- ③ 再編による教員体制の充実について。

2. 心和中学校に関して、以下の2点について要望します。

① 心和中学校と心和中学校「天王寺教室」において、教育課程や教育内容に差をつけないようにされたい。

② 生徒が心和中学校と心和中学校「天王寺教室」のどちらも選択できるようにされたい。

3. 学びの多様化学校と夜間学級を併設したことの効果について、明らかにされたい。

4. 急増する日本語指導の必要な生徒に対応するために、各校に日本語指導教員を充実されたい。

5. 生徒数が増加に転じていることから、学習者が通学しやすい場所に夜間中学校を新設されたい。

6. すべての夜間中学生に給食、もしくはそれに値する食事を提供されたい。

7. 中学校夜間学級の教育扶助費（学級費）の支給について、中学校既卒者も支給対象とされたい。

8. 在籍期間中の就学援助を保障されたい。

9. 大阪市民に夜間中学校がどれだけ周知されているか、調査されたい。

以上